



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)  
ニューズレター (2022 年度 No.3)  
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆HC 賞授賞のご報告
- ◆HCG シンポジウム 2022 開催のご報告
- ◆2023 年総合大会投稿のご案内
- ◆FIT2023 (第 22 回情報科学技術フォーラム) 投稿のご案内
- ◆研究会活動紹介 (HIP)
- ◆研究会活動紹介 (HPB)

---

## HC 賞授賞のご報告

庶務幹事  
吉田 寛 (NTT)

---

令和 4 年度ヒューマンコミュニケーション(HC)賞授賞式が、令和 3 年 12 月 16 日(金)に HCG シンポジウム 2022 クロージングとともに開催されました。今回のシンポジウムは高松市の会場において久しぶりの現地開催(ハイブリッド)となり、受賞者コメント、記念撮影がおこなわれ、受賞者に賞状が贈呈されました。

HC 賞は、過去 1 年間に開催されたヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)の第一種研究会(HCS, HIP, MVE, WIT)における技術研究報告を対象とし、各研究専門委員会に設置された選考委員会の厳正なる審査の下に選出されます。受賞件数は対象期間の発表 25 件につき 1 件、以降 50 件ごとに 1 件を基準としており、HCG が授与する賞の中で最も権威の高い賞となります。本年は次の 5 件の発表が HC 賞を受賞されました。

### ○ヒューマンコミュニケーション基礎研究会

「視覚障がい者のためのアーチェリー競技支援システムの開発 ～ 被験者実験による音響式照準器の性能評価～」(HCS2021-64)

「摂食を介したヒューマンロボットインタラクションを実現するための可食ロボットのデザインと動きの印象評価」(HCS2021-47)

### ○ヒューマン情報処理研究会

「オブジェクトベースの視覚的注意に基づく情報入力システム」(HIP2022-25)

### ○メディアエクスペリエンス・バーチャル環境基礎研究会

「卓上直立空中像を 4 方向に提示する光学系における迷光低減手法の検討」(MVE2022-3)

### ○福祉情報工学研究会

「スポーツ中継番組への解説音声サービスの実証実験における視覚障害者の受容性調査」(WIT2021-37)

いずれもコミュニケーションにおける課題に取り組んだ魅力的な研究であり、研究視点、手法、結果の新規性、独自性および有効性、各分野への発展性や

応用可能性などの観点から高く評価されました。

受賞一覧は下記 URL よりご覧いただけます。各発表の技術研究報告もぜひあわせてご覧ください。

<https://www.hcg-ieice.org/archives/hc-awards>

=====

HCG シンポジウム 2022 開催のご報告

企画幹事  
三浦 貴大 (産総研)

今年度で 20 回目を迎えた HCG シンポジウム 2022 (副題: リアル・バーチャルが響き合うヒューマンコミュニケーション) が 2022 年 12 月 14 日(水)～2022 年 12 月 16 日(金)にハイブリッド開催されました。2020 年・2021 年のシンポジウムは COVID-19 の世界的流行のためにオンラインのみの開催でした。一方で、2022 年はその流行が止まない状況ながらも、オンサイトへの回帰が主に国際学会を中心に行われていました。以上の状況を鑑みて、2022 年はサンポート高松 (香川県高松市) を現地会場としつつ、オンライン会場も併用したハイブリッド開催と致しました。

3 年ぶりに現地会場が設定されたためか、今年度の発表件数は 121 件 (招待講演およびチュートリアル講演: 1 件ずつ, 特集テーマセッション内の招待講演: 8 件, 口頭発表とインタラクティブ発表: 83 件, インタラクティブ発表のみ: 28 件) と, COVID-19 流行前の HCG シンポジウムと同程度まで回復しました。さらに, 参加者数も合計で 273 名 (うち現地参加者: 173 名) と, 2021 年開催時よりも 4 割増, 前回の現地開催 (2019 年) 時よりも 3.5 割増と, 多くの方のご参加を頂きました。ご発表, ご参加くださった皆様, 誠にありがとうございました。今回も 3 日間のインタラクティブセッションそれぞれに対して, 参加者の投票により決定されるインタラクティブ発表賞 (最優秀・優秀・学生優秀) が贈呈されました。受賞した発表の一覧は, 以下のウェブサイトに掲載されておりますので, 興味ございましたらご覧ください。

<https://www.hcg-ieice.org/hcg-symposium/2022/award/>

招待講演は, 「with コロナ社会におけるこれからの遠隔協調」というタイトルで東京大学 大学院 情報理工学系研究科の葛岡 英明 先生よりお話頂きました。テレワーク・メタバースに関する現状・技術に加え, 遠隔協調作業を効率化するインタラクティブ方法に関する研究についてご紹介いただくと共に, その応用研究として介護支援などへの活用の展望についてもご講演いただきました。

2017 年度より始まったチュートリアル講演では, 今年も工学・情報科学と他分野の境界領域に関する研究が紹介されました。これまでは, 心理学 × 工学・情報科学 (2017), 心理統計学 × 工学・情報科学 (2018), 生理学 × 工学・情報科学 (2019), デザイン x 工学・情報科学 (2020), 文化人類学 × 工学・情報科学 (2021) というトピックでの講演が行われました。今回は, アート × 工学・情報科学というテーマの下, 慶應義塾大学 大学院 政策・メディア研究科 / 株式会社 Qosmo の徳井 直生 先生に, 「創るための AI - 音楽・メディアアートの実践を通して考える, 人と AI, 創造性の未来 -」というタイトルでお話いただきました。StyleGAN や MelGAN など敵対的生成ネットワークによって生成した楽曲を用いた DJ パフォーマンスである「AI DJ Project」について, その基盤となる技術のご紹介の他, DJ としての人間と AI が相互にインタラクティブした際の即興パフォーマンスについてお話いただきました。

また、特定のテーマに関係する発表者を集めた特集テーマセッションでは以下の6セッションが生まれ、優秀な発表に対して「特集テーマセッション賞」が贈られました。受賞者一覧は、前述したウェブサイトに掲載されております。

- ・ソーシャル・インタラクション
- ・ロケーション・インフォマティクス
- ・テレワークの受容とテクノロジー・心理
- ・インターバースにおける体験デザインとその評価
- ・ユーザーニーズに即した視覚障害者支援
- ・(パラ)スポーツと(パラ)eスポーツ

なお、今回はハイブリッド開催ということで、現地・オンライン会場を如何にシームレスに繋ぐか、の新たな取り組みが行われました。オンライン発表用に利用した Zoom と現地会場において円滑なコミュニケーションを行ってもらうべく、現地会場のマイク音声は直接 Zoom に届くような設定をしました。こちらは概して、大きい問題は発生しなかったものと私は考えています。一方で、インタラクティブセッションおよび懇親会は、前々回・前回から引き続き oVice というバーチャル空間を活用しました。ただ、oVice 自体はシステム的な改善はされていたものの、インタラクティブセッションにおいては現地会場と併用したことで、oVice 会場に人が集まりにくかったなどの課題が出てきました。現地・オンラインを併用したインタラクティブセッションをどのように実施するかは、今後の検討課題とできればと思っております。なお、インタラクティブセッションのショットガントーク動画は、内容を短い時間で把握・復習する上で良いものだったと考えています。また、質疑応答のディスカッションを活発化するため、Slack ワークスペースも開設いたしました。しかし、現地会場・Zoom 会場での即興的な質問が主だった所であったため、前々回・前回と比べると、書き込まれた件数は多いとは言いが難かったと思われまふ。ハイブリッド開催をしていく上で、現地会場とオンライン会場の両者におけるエクスペリエンスを最大化するために何が必要であるかについて、次回以降の開催の際などに今回の反省を活かせればと考えております。

次回の HCG シンポジウム 2023 は、2023 年 12 月 11 日(月)～13 日(水)に開催される予定です。ここ数年は水曜～金曜でしたが、今回は開催曜日が異なる点にご留意ください。COVID-19 の流行状況は依然として変わりなく、このような「新しい日常」は既に「ありふれた日常」となった一方、当たり前となったオンラインコミュニケーションと従来の対面コミュニケーションの併用も無意識に行われるものとなりました。この状況から次回のシンポジウムも、現地会場を福岡県北九州市としたハイブリッド開催での検討を進めております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

=====  
2023 年総合大会開催のご案内

企画幹事  
三上 弾 (工学院大)

-----  
2023 年電子情報通信学会総合大会の開催をお知らせいたします。今年はハイブリッド開催を予定しています。

- ・会 期：2023 年 3 月 7 日(火)～10 日(金)
- ・会 場：芝浦工業大学(さいたま市)
- ・スローガン：世界へ飛躍する次世代 X

最新の情報につきましては下記をご覧ください。

<https://www.ieice-taikai.jp/2023general/jpn/>

電子情報通信学会では毎年春に総合大会，秋にソサイエティ大会を開催しています。総合大会はヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）に加え，学会を構成する 5 つのソサイエティ（基礎・境界，NOLTA，通信，エレクトロニクス，情報・システム）が一堂に会して開かれる大規模なものです。今年はハイブリッド開催となり，2019 年以来 4 年ぶりに対面が復活します。

今回の総合大会においては，3 月 7 日に Welcome Party として，電子情報通信学会に所属する各研究専門委員会の紹介や企業紹介などを実施する予定です。また，大会 3 日目である 3 月 9 日（木）にはプレナリーセッションが開催されます。本セッションでは，電子情報通信学会会長の川添雄彦氏による講演の後，学術奨励賞授賞式・教育功労賞授賞式・フェロー称号贈呈式といった一連の表彰式が執り行われます。また，セッション後半では基調講演 2 本が予定されています。最初に「理工学教育の先進的構想」との題目で山田純氏（芝浦工科大学長）にご講演頂いたのち，「海外との連携による研究活動」と題して中尾彰宏氏（東京大学教授）からご講演頂きます。

プレナリーセッションだけでなく例年，一般セッション，多数の企画講演セッションが行われています。今大会においても 40 件の魅力的な企画講演セッションが提案されております。ぜひこの機会に，皆様お誘い合わせの上，ご参加をご検討下さい。多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

=====  
FIT2023（第 22 回情報科学技術フォーラム）投稿のご案内

企画幹事  
三上 弾（工学院大）

-----  
電子情報通信学会（ヒューマンコミュニケーショングループ（HCG），情報・システムソサイエティ（ISS））と情報処理学会（IPSJ）が共同して主催する，FIT2023（第 22 回情報科学技術フォーラム）についてご案内いたします。

- ・会期：2023 年 9 月 6 日（水）～8 日（金）
- ・会場：大阪公立大学 中百舌鳥キャンパス（大阪府堺市中区学園町 1 番 1 号）
- ・講演申込時期：2023 年 3～4 月より募集予定。

最新情報につきましては下記をご覧ください。

Web: <https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2023/>

2002 年から毎年開かれている本フォーラムは，IPSJ 全国大会と ISS ソサイエティ大会の流れを汲むものです。従来の学会大会の形式にとらわれない試みを新たに導入し続けており，タイムリーな情報発信，活気ある議論・討論，多彩な企画，他分野研究者との交流などを実現してきました。

特に，2019 年大会より導入された「トップコンファレンスセッション」は，各分野におけるトップレベルの国際会議・学術雑誌にここ数年以内に採録された論文について，著者ご自身からご紹介頂く特別なセッションで好評を博しています。具体的なトピックは，機械学習，ネットワークとセキュリティ，コンピュータビジョン，コンピュータグラフィクス，ソフトウェア工学・アルゴリズム・アーキテクチャ，インタラクション，教育学習支援とマルチメディアなど多岐に渡り，直近の FIT2022 では 3 日間で 11 セッション，計 58 件の発表をしていただきました。FIT2023 でも同様のセッションが開催されることが予

想されます。

また、ビジネス分野との接点が意識されたセッションも企画されています。「IT 情報系キャリア研究セッション」では、企業と学生とが対話する機会を提供しております。昨年は 2 日間で合計 18 団体（企業および地方独立行政法人）と学生とが直接対話する機会を提供することができました。「インダストリアルセッション」「AI Tech Talk」では、企業における技術開発や、企業における AI 技術に関連したビジネスへの取り組みが紹介されています。

そしてもちろん FIT は、皆様の研究成果を発表して頂き活発な議論をする場でもあります。FIT では情報科学に関する 15 分野(※)についての発表・議論が行われてきています。この機会に FIT2023 へのご投稿・ご参加を是非検討下さいませ。

発表を募集している分野

- A: モデル・アルゴリズム・プログラミング B: ソフトウェア
- C: ハードウェア・アーキテクチャ
- D: データベース
- E: 自然言語・音声・音楽
- F: 人工知能・ゲーム
- G: 生体情報科学
- H: 画像認識・メディア理解
- I: グラフィクス・画像
- J: ヒューマンコミュニケーション&インタラクション
- K: 教育工学・福祉工学・マルチメディア応用
- L: ネットワーク・セキュリティ
- M: ユビキタス・モバイルコンピューティング
- N: 教育・人文科学
- O: 情報システム

---

研究会活動紹介 (HIP)

HIP 委員長  
和田 有史 (立命館大)

---

ヒューマン情報処理研究専門委員会 (HIP) は、人間の感覚情報処理に関わる基礎から応用までの幅広いテーマで、研究活動を発表する場を設けています。主な発表の場は年 6 回開催される通常の研究会で、他の学会や研究会と共催しつつ実施しています。これまでは、北は北海道、南は沖縄まで様々な場所で開催してきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響がまだ残り、2022 年度の研究会は完全に対面に移行はせず、ハイブリッド、オンラインも織り交ぜて開催し、活発な議論がなされました。

本研究会が対象とする研究領域は、心理学、工学、脳科学、生理学、情報学、社会学などと密接に関連します。この学際性の高い分野全体をカバーすべく、単に人間の感覚情報処理過程を科学的に明らかにする研究だけでなく、その知見を生かした新しいインタフェース技術やバーチャルリアリティ技術に関する研究も広く受け入れる懐の深さが特徴と自負しています。その一方で、年間 6 回行われる研究会では、この懐の深さを活かしつつ、各回で独自の特徴を持たせたテーマも設定しています。例えば 2021 年度は、「眼球運動」や「感性情報処理」といったテーマで研究会を実施するほか、「顔・身体学」や「生涯学」といったテーマでも関連する方々との共催で研究会を計画してきました。来年度は連携研究会とともに、開催場所やテーマを工夫し、さらに活発に活動していく予定です。

研究会とともに、FIT や HCG シンポジウム、電子情報通信学会総合大会でも、関連する研究分野を対象とした企画セッションを HIP として提案、実施してきました。2022 年度は表立った企画の実施はなかったのですが、もしみなさんの方でこれらの大会等で HIP の企画として何かご提案がございましたら、HIP の各委員までご連絡をいただきたいと思います。

なお、開催される各研究会での発表募集は下記のホームページで随時アナウンスを行っています。

ヒューマン情報処理研究専門委員会 (HIP) のホームページ：  
<https://www.ieice.org/~hip/index.html>

---

## 研究会活動紹介 (HPB)

HPB 委員長  
岩井 将行 (東京電機大)

---

センサ技術や通信技術の発展・普及と、スマートフォンなどの人の携行する機器の広範な普及に伴い、人がセンサを持ち歩くことと同時に、いつでも自分や周囲の環境を観測し、データを共有することが可能になってきています。自分が意識せずともスマートフォンが周囲を観測し、情報を共有する社会は、どこか実態の掴みづらい恐ろしい社会を連想させてきた側面があります。一方で、世界的な感染症の拡大により、接触確認アプリをはじめとしたアプリやサービスが開発・リリースされ、人の持つデバイスが自分や周囲の状況を観測し、データを共有することが新たな価値を創出する側面が注目される機会となりました。人の活動に伴って生成されるデータを自らが観測しながら、実世界の事象を情報として広く解析・蓄積することで、実世界の様々な現象やメカニズムを定量的に把握し、社会の諸問題の解決に貢献していくことができます。

ヒューマンプロブ (HPB) 研究会では、センサの技術開発、データの観測方法や調査の設計、通信技術、センサデータ分析、分析用の背景データの整備、分析結果の提示方法、提示された情報による人の行動変容、行動変容に伴う社会へのインパクト、サービス開発など、人とデータの関わる研究課題について広く分野横断的に議論・交流を進めています。

HPB 研究会は毎年 2 回 (7 月頃と 2 月頃) 開催しており、2009 年 7 月の初回開催以降、14 年目となる今年度までに全国各地で 27 回の研究会を開催してきました。春期開催では、一泊二日の合宿形式で 2 日間の研究発表会を実施しており、毎回、招待講演者から最先端な研究を御紹介頂く「招待講演セッション」や、各大学教員の提供する話題を深夜まで議論する「ナイトセッション」をはじめ、新しい発想・視点での萌芽研究発表など、研究発表だけでなく研究者同士の交流を図ることを目的として、全国の温泉地で研究会を開催してきました。また冬期開催は、一般講演発表に加え、学生の卒修論発表を中心とした「学生セッション」や、萌芽研究発表を中心とした集中討議にも力を入れた「議論セッション」を中心に実施しており、各地の大学・企業の研究者・学生からの研究発表を頂いています。

HPB 研究会は、単純な研究報告会ではなく、研究内容の議論と研究者同士の情報交換や萌芽的研究の相談の場としての役割を担いながら、運営メンバーの自由な発想による研究会が実現できるよう、今後も活動を続けたいと考えています。皆様の御参加をお待ちしております。

御質問・御相談は、kanji@human-probe.info まで御連絡ください。

